

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子池袋本町保育園
施設所在地	豊島区池袋本町1-31-2
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

近隣の公園に散歩に行った際にダンゴムシや蟻に興味を示し、自分たちで持って行ったカゴに入れてはじっと観察をしていた。帰園後も観察した虫の「足は何本あったか?」「どのような場所に住んでいたか?」等、思い出しながら話をしたり、図鑑をみようとしたりしていた日が続いていたことや、夏季期間に保護者からあおむしやカブトムシの成虫と幼虫などを頂き、みんなで名前を付けてお世話をしながら成長を観察する中で、虫への興味がさらに深まっているため。

## 2. 活動スケジュール

### 【テーマを設定する】

4月～6月：戸外散歩時に生き物に興味を示し、虫を捕まえて手のひらに乗せてみたり、観察しようとするため、自由に自然に触れることができる環境を園庭に作りたい

### 【観察を始める】

7～8月：いただいたあおむしとカブトムシ、クワガタを園で観察できるようにしたいという子どもたちの声から、プロジェクター・スクリーン等を購入。

あおむしとカブトムシ、クワガタのお世話当番を作って毎日交代でお世話をしたり、籠から出してふれあいを楽しむ。

### 【虫の製作をする】

9月：毎日虫の観察を行うことで、自分たちでも何か虫の製作をしてみようという声が子どもたちから上がる。まず虫の製作をする前に、プロジェクターとスクリーンを使用して、虫の模様や足や顔の形などをアップで観察し、体の作りの違いに気付けるようにした。

### 【虫たちの成長を振り返る会を実施する】

9月26日：保育者が、これまで、虫を生育してきた子どもたちの姿や、虫の成長の過程を動画にして、プロジェクターにてお世話したことや虫たちの成長を振り返る会を実施した。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

### ①問いを考える

「虫にはどんな模様があるか」「なにを食べるのか」「どのように成長していくのか」子どもからイメージを聞き出し、一緒に考えた。

### ②環境をデザインする

プロジェクター、スクリーン、USBハブ、HDMIコードの購入

設定：プロジェクターでスクリーンに映像を映して見ることで肉眼では見にくい体の細部を見ることができ、より興味を示せるようにした。

当番制で虫のお世話をしたり、毎日虫に触れる時間を設けることで、虫への興味や関心に繋がった。

図書館でアゲハ蝶の本を借りてきて子どもと一緒に見る中で、あおむしの育て方やアゲハ蝶の特性について理解を深められるようにした。

### ③探究活動を実施し、記録する

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

○飼育する中で虫の生態について気づく

①なにを食べるか

あおむしと一緒にみかんの葉を用意し、あおむしがみかんの葉を食べるところを観察した。また、図鑑を用いて何を食べるのかを保育者と一緒に調べ、柑橘類の葉を食べることを知った。

②どんな模様があるか

実際に観察して模様を見たり、手に乗せて観察することで身体の模様気付いたり、頭のところに赤い模様があることなどに気づき、関心を深めた。

③どのように成長していくのか

アゲハ蝶の図鑑を借りてきて、あおむしを見比べることで今どの成長過程なのかを捉えた。

プロジェクターを使用して、成長過程やお世話をしていた様子の写真や動画を見ることで、あおむしが蛹になっていく様子を思い出していた。その後、あおむしや蝶の製作を行った。プロジェクターで見たあおむしの様子を思い出して丁寧に作っていた。

○虫を生き物として接する変化が見られる

昆虫に対しての接し方が、最初の頃は無理矢理木から離したり、手のひらに乗せようとする子どもの姿が見られたが、保育者が実際に触れる様子を見たり、同じように丁寧に扱おうとする姿が見られた。借りてきたアゲハ蝶の本を保育者や友達と一緒に見ながら、何を食べるのか、どのように成長していくのかに興味を持ち、本の中の写真と実際にお世話しているあおむしを見比べて「いまこの写真と同じだね」「もう少ししたら蛹になるかな」とあおむしの成長の過程を捉え、楽しんでいた。

○細かな観察が制作につながる

プロジェクターを用いて、卵から蛹や蝶になった過程やみんなでお世話した様子を振り返ることで、「こんなに小さかったんだね」と思い出し、蝶になっていく過程を思い出して感じたことを口々にしていた。また、プロジェクターで振り返ったのちにあおむしと蝶の製作を行った。「ここは赤だった」「こんな模様もあったよね」とあおむしを思い出して、再現して楽しんでいた。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

○なにを食べるのか

毎日どんどん葉が減っていることに気づき、葉以外も食べるのか興味をもっていた。図鑑を友達や保育者と見ることで、一緒に興味を深めることを楽しんでいた。また、柑橘類の葉を食べることを知り、「どこに行けば葉っぱがあるのかな」と興味を示していた。

○どんな模様があるか

実際に見ることで、「ここに緑の線があるね!」と気付いたり図鑑にアップであおむしの写真が掲載されていると、「ここに赤い所があるんだ」と気付き、その写真を元に実際のおおむしをよく観察して、同じような模様を見つけると、「この写真と一緒にだ」「あった」と喜んでいた。

○どのように成長していくのか

プロジェクターで卵のころからの成長を振り返ることで「小さかったよね」「かごから出ちゃったよね」「蛹からちゃんになったよね」と成長の過程を写真や動画とともに思い出して、子ども同士で口にしながら楽しんでいた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初はただ「気になる」という気持ちで楽しんでいた子ども達だったが、実際に世話をしたり、動画や本で成長過程を調べる中で、よりあおむしへの興味が深まり、あおむし以外の虫も含め、扱い方が丁寧になったり、愛着を持って関わろうとする姿が見られた。また、本を用いて成長過程を振り返ったり、見通しを持つことでさらに興味が深まり、毎日観察しては本と見比べていまどの段階なのかということ調べ、子どもの「知りたい」という気持ちを膨らませることが出来た。また、柑橘系の葉を好むことは分かったが、どこに探しにいったらよいかわからないという声もある為、園庭の花壇にキンカンを植えることで、あおむしの卵が生まれたり、お世話できるように環境を整えていく。日々成長していくため、その様子をプロジェクターでみんなで見返したことで、最初の状態を思い出したり、感じたことを子ども同士で話して共感することでみんなで育てた達成感を味わっている様だった。子ども達の好きを捉えて、「知りたい」という気持ちを尊重し、調べられる環境や振り返られる環境を作ることで子どもの学びに繋げることが出来て良かった。今後も、虫に限らず、子どもの好きを捉えて、遊びや興味から学びに繋げていけるように保育を行っていく。